

シュン レッ チョーさんのレポート

この旅行は、「Discover Japan」というグループから支援金をいただき、私たち自身で計画を立てて実施したものである。行き先やスケジュールを一から考える過程を通して、主体的に行動する力を養うことができた。また、今回の旅行は、人生で初めて「どこへ行くか」「何時に何をするか」といった予定を自分たちで決めて行った旅行でもあった。

長野県に到着してまず印象に残ったのは、遠くに広がる雪山の景色である。その光景を目にした瞬間、自然の豊かさと雄大さを強く実感した。また、現在住んでいる愛知県や三重県と比べて観光客が非常に多いことにも気づいた。特に外国人観光客の姿が目立ち、長野県が国内外から人気の高い観光地であることを実感した。

最初に訪れたのは善光寺である。長い歴史を持つ寺院で、多くの参拝者が訪れており、日本の伝統文化や信仰を身近に感じることができた。さらに、第23回長野灯明まつりにも参加することができ、幻想的な光景を体験できたことは非常に印象的であった。

白馬では、豊かな自然の美しさを存分に味わい、都会では感じることでできない静けさや澄んだ空気を体感することができた。残念ながら時間に余裕がなかったためスキーをすることはできなかったが、スキーを楽しむ多くの外国人観光客の姿が見られ、国際的な観光地であることを改めて感じた。

地獄谷スノーモンキーパークでは、温泉に入るサルを見ることができた。日本人だけでなく海外からの観光客も多く訪れており、日本独自の自然や文化の魅力を改めて認識する機会となった。また、滑りやすい雪道を笑いながら歩いたことも、この旅行ならではの貴重な体験であった。さらに、「永遠の『カワイイ』はここから始まった」というテーマのサンリオ展 60周年記念大博覧会が開催されていたため、見学する機会にも恵まれた。

最後に松本市を訪れ、現存する松本城の天守の美しさや精巧な構造に深い感銘を受けた。また、松本市時計博物館ではさまざまな時代の時計が展示されており、時代ごとの技術の進歩について学ぶことができた。普段あまり意識することのない「時間」という概念について改めて考える良い機会にもなった。

さらに、長野県まで来た機会を生かし、アニメや若者の間でも知られている場所の一つである諏訪湖にも足を運んだ。到着した時間はやや遅くなってしまったが、このような機会はもうないかもしれないと思い、訪れることにした。しかし、帰りは予想以上に大変だった。駅から諏訪湖まではタクシーで行くことができたものの、帰際にはタクシーが見つからず、暗く人通りも少ない山道を、少し不安を感じながら荷物を持って駅まで歩いて戻

ることになった。そのときは笑うべきか泣くべきか分からないほど大変だったが、今では旅の最後を象徴する忘れられない思い出となっている。

今回の旅行を通して、計画を立てる力や協力することの大切さを学ぶことができただけでなく、日本の文化や自然の魅力を改めて実感することができた。今後もこの経験を生かし、さまざまな場所を訪れながら新しい発見をしていきたいと考えている。